

1 和文書体についての専門知識

次の1~10の各書体名を下のA~Jから選び、その記号を右の解答欄に記入してください。

- |                                   |                                    |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 表彰状を贈呈します <small>行書体</small>   | 6. ライスおかわり自由 <small>丸ゴシック体</small> |
| 2. 憧れのマイホーム <small>ゴシック体</small>  | 7. 肌が美しい女性 <small>宋朝体</small>      |
| 3. 商売繁盛の店 <small>勘亭流</small>      | 8. 日本銀行券 <small>新聞明朝体</small>      |
| 4. 小学校の新しい教科書 <small>楷書体</small>  | 9. 季節限定 <small>隷書体</small>         |
| 5. 会社に報告書を提出する <small>明朝体</small> | 10. 扇子に書かれた和歌 <small>草書体</small>   |

A.ゴシック体 B.楷書体 C.明朝体 D.丸ゴシック体 E.新聞明朝体 F.隷書体 G.行書体  
H.草書体 I.宋朝体 J.勘亭流

3 専門用語の理解

次の1~10の文章の□にあてはまる最も適切な語句を下のA~Zから選び、その記号を右の解答欄に記入してください。

- 「MS P明朝」は、**C** フォントである。
- 江戸時代から伝わる、歌舞伎の看板や番付け、のぼりなどに用いられた装飾体を**D**という。
- ギリシャ語で、アルファベットを美しく書く技術のことを**A**という。
- 言葉がわからなくても意味が通じる、実用的にデザインされた視覚記号のことを**G**という。
- 欧文で「O」の文字を書くとき、中心軸が左に傾くのは**I**である。
- カラー印刷では、2色刷りでも**R**によって多くの色を効果的に表現できる。
- レイアウトを行う際に、本文のテキストや図版を配置する基本領域のことを**O**という。
- 日本画の表現技法を使って、ぼかしや濃淡を入れるために用いるのは**L**である。
- 字の中心から次の字の中心までの距離のことを**M**という。
- 製本で、印刷された紙をページ順にそろえて一冊の本になるようにまとめる作業を**J**という。

A.カリグラフィ B.等幅 C.プロポーショナル D.勘亭流 E.特色 F.御家流 G.ピクトグラム  
H.トレードマーク I.オールドローマン J.丁合 K.折丁 L.隈取り筆 M.字送り N.面相筆  
O.版面 P.字間 Q.マージン R.掛け合わせ S.アンパサンド T.オンデマンド U.会意文字  
V.モダンローマン W.丸筆 X.色分解 Y.タイポグラフィ Z.写植

2 欧文書体についての専門知識

次の1~10の各書体名を、下のA~Jから選び、その記号を右の解答欄に記入してください。

- Milk** C ピステリー・ローマン
- Milk** A ブロードウェイ
- Milk** B クラレンドン
- Milk** E ヘルベチカ・ボールド
- Milk** F ボドニ・ボールド
- Milk** H フルティガー
- Milk** D フリッツクアドラ
- Milk** J ガラモン
- Milk** G オプティマ
- Milk** I ブラッシュ・スクリプト

A.ブロードウェイ B.クラレンドン  
C.ピステリー・ローマン D.フリッツクアドラ  
E.ヘルベチカ・ボールド F.ボドニ・ボールド  
G.オプティマ H.フルティガー  
I.ブラッシュ・スクリプト J.ガラモン

解答欄

1

1	G
2	A
3	J
4	B
5	C
6	D
7	I
8	E
9	F
10	H

2

1	C
2	A
3	B
4	E
5	F
6	H
7	D
8	J
9	G
10	I

3

1	C
2	D
3	A
4	G
5	I
6	R
7	O
8	L
9	M
10	J



1.和文書体についての専門知識  
和文書体の知識です。ここでは  
主な書体カテゴリーだけですが、  
明朝体一つをとっても特徴を持っ  
た書体がたくさんあります。自分  
の好きな書体の固有の書体名を  
調べて、覚えていきましょう。

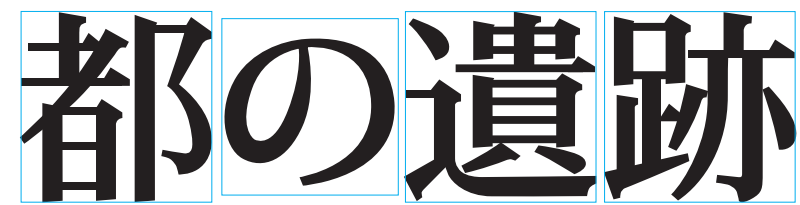
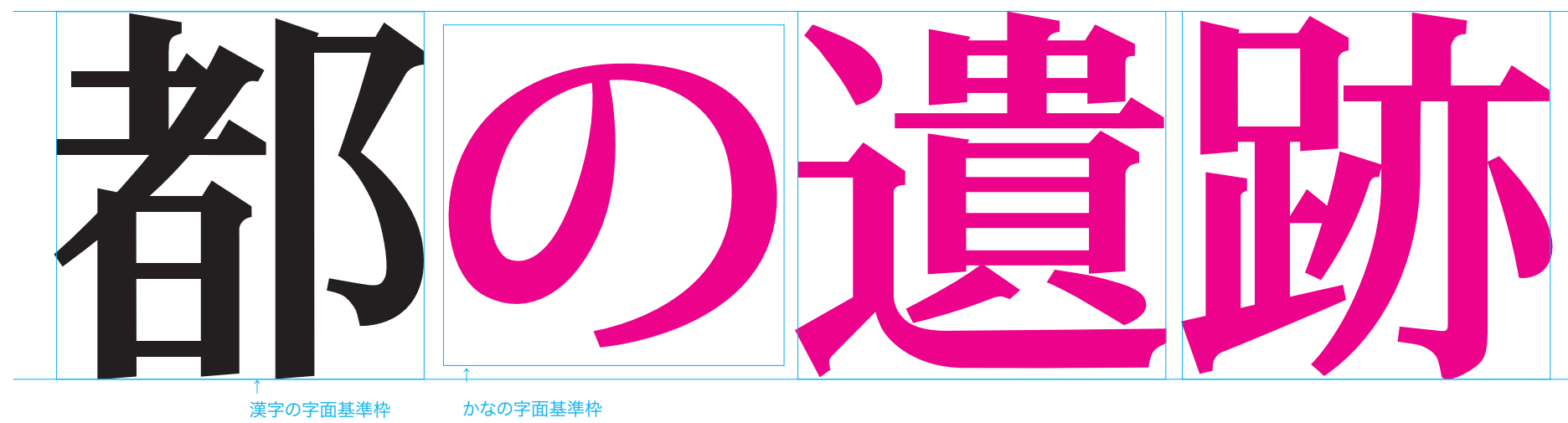
2.欧文書体についての専門知識  
欧文のスタンダードな書体の形  
を識別しなければなりません。出  
題されている書体は、すべて書体  
サンプル集(最新版)に記載され  
ています。よく見比べて特徴を覚  
えてください。

3.専門用語の理解  
2級では書体サンプル集の用語  
解説以外のデザイン関連のことも  
出題されますから、日頃から文字  
やデザイン、印刷、広告、色など  
に興味を持って接することが大切  
です。

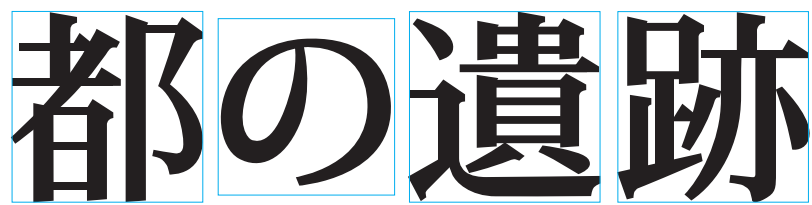
4 和文指定書体表現

「都の遺跡」の4文字を、見本の「都」に合わせて、欠けている文字を書いて完成させてください。

- 書く文字は、「都」の次に「の遺跡」の3文字。
- 仕上げは鉛筆以外の用筆、用材で黒色とする。
- 書体、大きさ、ウエイト、エレメントなどは、「都」に合わせること。
- 塗り残しのないように、はっきりと仕上げること。
- 「都」を含む左右寸法は、おおよそ235～245mmに収めること。
- 用具、用材の使用は自由。
- 横書きのこと。カギカッコは不要。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。



少しツメたスペーシングの場合



ゆったりスペーシングの場合



4.和文指定書体表現

横線が太めの明朝体です。明朝体でも様々な特徴を持っています。見本の「都」をよく観察してください。

文字バランスはオーソドックスですが横線とたて線の太さ、横線の入り方、うるこの形、はらいの先端はどうでしょう。たて線、点、はらいそれぞれのエレメントをどれだけ観察でき再現できるかです。

かなの「の」についてはヒントがありませんがウエイトをあわせて書いて下さい。

スペーシングは漢字と漢字はベタ組み、かなを少しツメるくらいが良いでしょう。

ベタ組みでも、ゆったり優雅に組んでもOKです。

5 欧文指定書体表現

「Series」の文字を、見本の「Se」に合わせて、ヘルベチカ・ボールドで書いてください。

- 書く文字は、「Se」に続けて「ries」の4文字。
- 仕上げは鉛筆以外の用筆、用材で黒色とする。
- カギカッコは不要。
- 塗り残しのないように、はっきりと仕上げること。
- 用具、用材の使用は自由。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。



5. 欧文指定書体表現

書体はヘルベチカ・ボールドです。スペーシングは「Se」にあわせていきます。直書き(じかがき)でのスペーシングはとても大変なので、一度ほかの用紙にキャップライン、ミーンライン、ベースラインを引き、それぞれの文字のエックスハイトに対する字幅の比率をデバイダで割り出して描き、切り貼りしてスペーシングしてから、またはスペーシングしながらトレーシングペーパーに写し取って、答案用紙に写して仕上げる方法がおすすめです。

文字は軽く、(直書きのときは、墨入れに支障がない程度に)斜線などで均一に塗りつぶすことで太さやスペーシングが見えてきます。

天、地がラウンドしている部分は同じ高さに見えるようにキャップライン、ミーンライン、ベースラインから少し出して錯視調整します。これをオーバーシュートといいます。



6 書体造形および構成

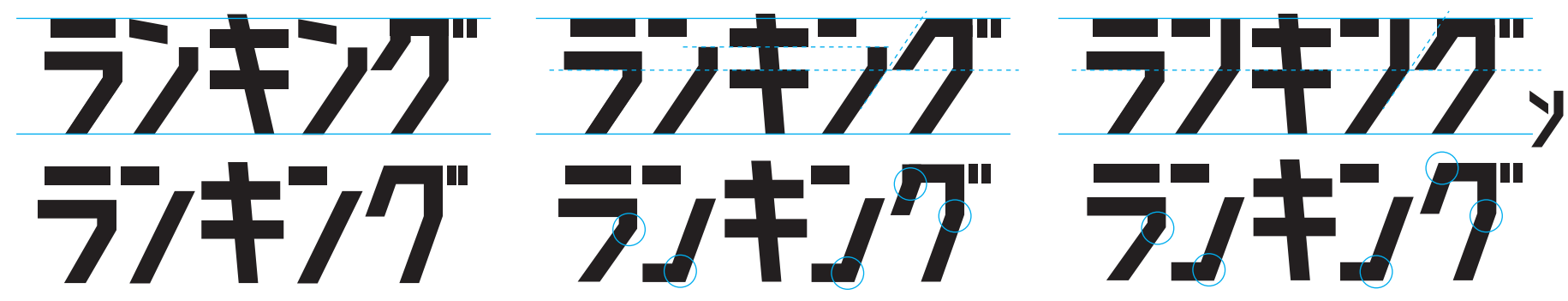
「ランキング」の5文字を、見本の「ラ」に合わせて、欠けている4文字を書いて完成させてください。

- 書く文字は、「ラ」の次に「ンキング」の4文字。
- 仕上げは鉛筆以外の用筆、用材で黒色とする。
- 大きさ、ウエイト、エレメントなどの書体の特徴は「ラ」に合わせること。
- 塗り残しのないように、はっきりと仕上げること。
- 「ラ」を含む左右寸法は、おおよそ210～220mmに収めること。
- 用具、用材の使用は自由。
- 横書きのこと。カギカッコは不要。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。

幾何的なロゴタイプなのでラインを意識します。



ラの特徴を分析するといくつかのパターンが考えられます



ソに見えてはだめです。



6.書体造形および構成

「ラ」をよく観察することが大切です。複雑な骨格、エレメントではないので考えやすいと思います。ロゴタイプを書くときは、ラインを合わせることでスッキリみせる工夫をすることがあります。全体の重心の高さにも注意しながらラインをそろえてみてください。「キ」の天はラインをそろえるとへこんで見えるので調整が必要です。ロゴタイプなので文字枠の大きさをそろえる必要はなく、見た目を重視してください。

1 字体の理解

次のA～Eの文章の中に、誤字がそれぞれ2個ずつあります。右の解答欄の該当する箇所に、その番号を記入してください。

- A. 全員の名前を点呼して出席簿に記した。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
席簿
- B. 銀幕から姿を消した偉大な俳優を惜しむ会。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
姿 偉
- C. 祖父は毎晩書齋にこもって難解な本を読んでいた。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
齋 解
- D. 主人公は敵の妨害にあいながらも果敢に立ち向かった。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
妨 敢
- E. 専門の職業には特殊な訓練が必要である。  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
専 職

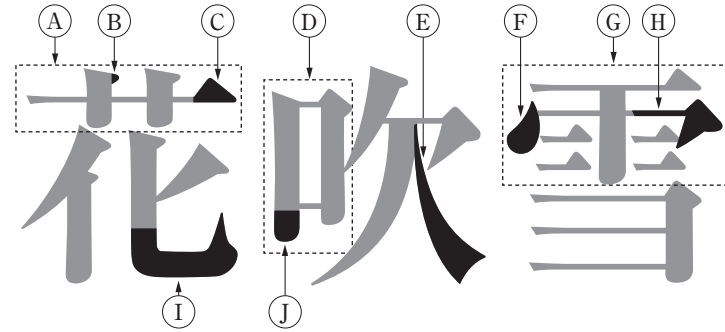
3 デザイン用語、用具、用法の理解および基本的な書体に関する知識

次の1～10の文章の□にあてはまる最も適切な語句を( )の中から選び、その記号を右の解答欄に記入してください。

- 系統の色彩は遠くにあるように見える。(A)寒色 (B)補色 (C)暖色)
- 水や油に溶けない着色用の粉末を□という。(A)染料 (B)顔料 (C)樹脂)
- 仮想ボディと仮想ボディの間の行のアキを□という。(A)行送り (B)行間 (C)行長)
- 断裁されていない最大サイズの規格寸法の洋紙を□という。(A)台紙 (B)原紙 (C)全紙)
- 図形の大きさや形が実際と異なるように見える現象を□という。(A)誤視 (B)錯視 (C)虚視)
- 「辻」「畑」「働」等、日本で独自に作られた和製漢字のことを□という。(A)俗字 (B)和字 (C)国字)
- 種類の異なる様々な曲線を引くときに便利な用具は□である。(A)雲形定規 (B)コンパス (C)ステンシル)
- 紙の発明以前に作られた漢字書体で、印鑑や装飾用に使われる文字を□という。(A)篆書体 (B)勘亭流 (C)宋朝体)
- 同じコンセプトで統一された骨格とエレメントを持つ書体のグループのことを□という。(A)セット (B)ウエイト (C)ファミリー)
- オールドスタイルローマンは、優雅でゆったりとした印象を与える□を持つ。(A)ブラケットセリフ (B)スラブセリフ (C)サンセリフ)

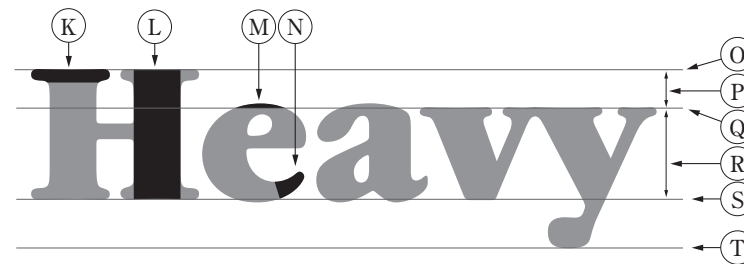
2 部首、部分、エレメントの理解

a. 次の明朝体の黒塗り部分と破線の部首3つ(A、D、G)の名称を下の用語の中から選び、その番号を右の解答欄に記入してください。



- くちへん 2.てん 3.つきだし 4.あし(げた) 5.よこせんはらい 6.あめかんむり
- まげはね 8.右はらい 9.うるこ 10.くさかんむり 11.ひげ 12.ぎやくてん

b. 次の欧文の矢印で示した部分とラインなど(O～T)の名称を下の用語の中から選び、その番号を右の解答欄に記入してください。



- ステム 2.ベースライン 3.アセンダーライン 4.セリフ 5.ミーンライン
- オーバーシュート 7.テール 8.デセnderライン 9.パー 10.アセンダー
- エックスハイト 12.キャップハイト

解答欄

1 (解答はそれぞれ順不同)

A	8
A	9
B	3
B	5
C	6
C	8
D	5
D	8
E	1
E	3

2

	a	b
A	10	K 4
B	3	L 1
C	9	M 6
D	1	N 7
E	8	O 3
F	12	P 10
G	6	Q 5
H	5	R 11
I	7	S 2
J	4	T 8

3

1	A
2	B
3	B
4	C
5	B
6	C
7	A
8	A
9	C
10	A



アドバイス

1. 字体の理解

間違い文字を探してください。画数が足りないとか「へん」や「つくり」が違っているなど念入りに見てください。

日頃から本に親しみ、文字を正確に書くことが大切です。

2. 部首、部分、エレメントの理解

和文、欧文の文字デザインの基礎知識である部首やエレメントの名称を答える問題です。

書体サンプル集に解説してあるのを見ておいてください。これを知らないと文字デザインについてのコミュニケーションがとれません。

3. デザイン用語、用具、用法の理解および基本的な書体に関する知識

書体サンプル集の用語集と図版のページに載っている基本知識です。



## 4 フリーハンドによる字体表現

下に示した筆記文字A、B、Cを、見本例のように書き直してください。  
見本例のようにスペーシングも考慮してください。

- 仕上げは鉛筆以外の黒の筆記具を使用。
- フリーハンドが基本だが定規の使用も自由。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。

漢字は正方形、かなは字形に合わせ、スペーシングを考慮して文字割りします。



見本

魅惑のジャズに憩う

## A ピンチからの形勢逆転

ピンチからの形勢逆転

かなの字面基準枠は漢字より小さくします

接する

アケル

接する が理解できていますか？

横線は水平に！

漢字の字面基準枠との関係

接する

接する

アケル

## B 伝統芸能をビデオで紹介

伝統芸能をビデオで紹介

## C 古都の魅力を海外でアピール

古都の魅力を海外でアピール

点線は字面枠です。漢字はベタ組み、かなを少しツメめてあります。



## 4.フリーハンドによる字体表現

それぞれの文字は正体(正方形の字面基準枠)で描いていきますが、漢字はツメないでベタ組みで割り付けます。かなはやや小さめの字面基準枠でスペーシングを考えながら文字の割り付けをしてください。

基本書体の骨格は筆記体と異なり水平垂直が整理されています。見本をよく見て右上がりの筆記体にならないようにします。

下書きは、紙を傷めないように、B-2Bの鉛筆で、うすく、ていねいに描きましょう。文字を間違えずバランスよくかけることを心がけてください。

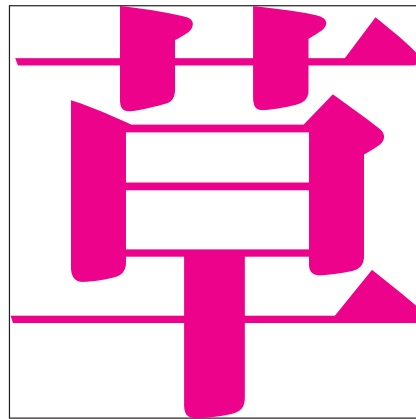
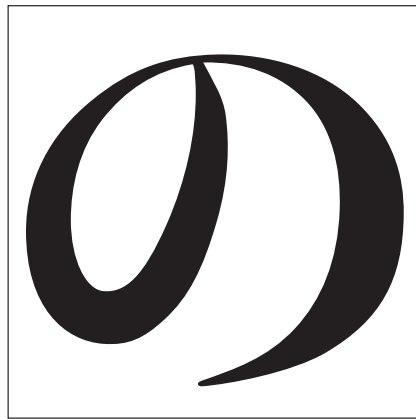
ミリペンなどで描いた部分が、完全に乾いてから消しゴムで消さないと汚れるおそれがあるので注意してください。

枠に接するか、離れるかをよく観察し、意識してください。

## 5 和文基本書体表現

下の枠(わく)の中に「緑の草原」の4文字のうち、「草原」の2文字を、「緑の」に合わせた明朝体で書いてください。

- 仕上げは鉛筆以外の用筆、用材で黒色とする。
- 塗り残しのないように、はっきりと仕上げること。
- 用具、用材の使用は自由。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。



↑  
漢字の字面基準枠です。



## 5. 和文基本書体表現

明朝体だからみな同じというわけではありません。バランスや縦、横線の太さ、はらいの勢い、点、うるこなどのエレメントがそれぞれにシャープだったりソフトだったりして、固有の特徴を持っています。

刷りこまれている「緑の」の明朝体の特徴をよく観察してください。草原の方が画数が少ないので少し太く描くとウエイトが合いますこの刷られている枠は漢字の字面基準枠です。

6 欧文基本書体の拡大視写

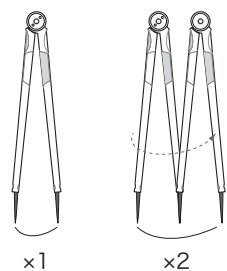
右の手本「JA」を、下のラインの中に拡大視写してください。

- 仕上げは鉛筆以外の用筆、用材で黒色とする。
- 用具、用材の使用は自由。電卓の使用は禁止。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。

★ 出題方法が少し変更されたので今回は次のヒントを参考にしてください。

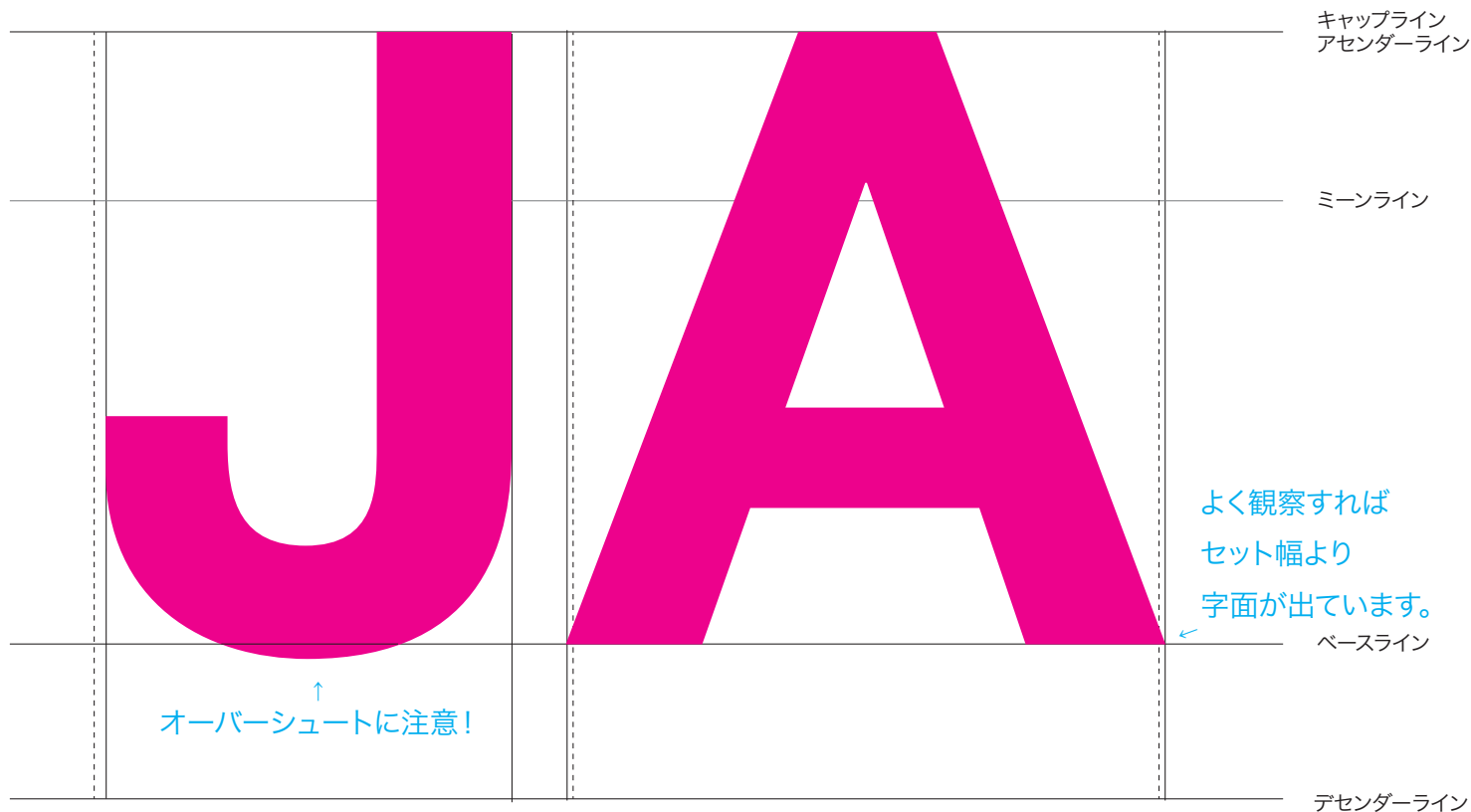
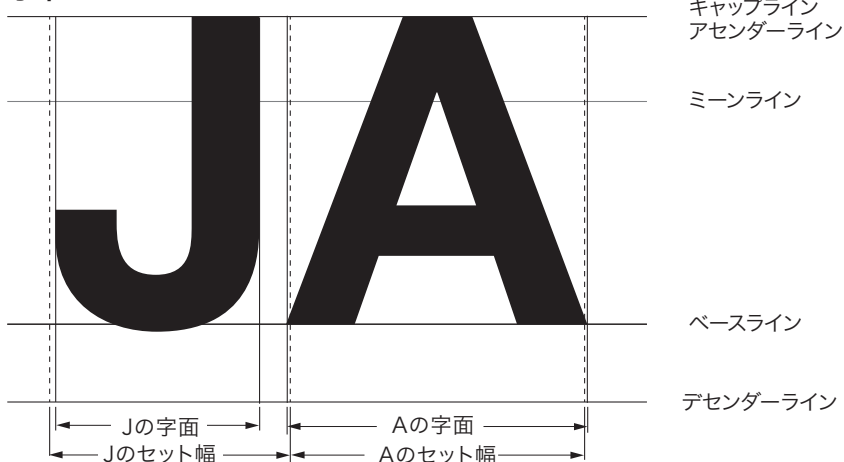
- ① 手本の2倍の拡大視写なのでデバイダ(コンパスでも代用できます)で2倍寸にして、太さ、位置を確認することができます。
- ② ライン上におおまかに鉛筆デッサンをしてみましょう。
- ③ 位置、大きさ、太さを確認すればマス目で分割は不要です。
- ④ 水平線、垂直線は必ず三角定規を使いましょう。

デバイダを180°回転させると寸法が2倍になります。



書体名: Helvetica Neue Boldはキャップラインとアセンダーラインが共通です。

手本

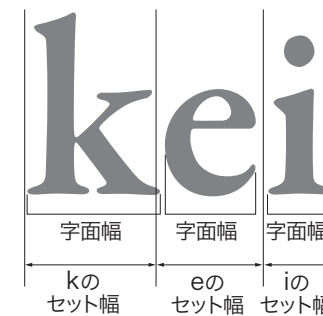


6. 欧文基本書体の拡大視写

書体はヘルベチカ・ボールドです。J、Aのたて線と横線の太さの違い、Aの斜め線は上部が交点の濃度調整のため細くなっているため細くなっている平行線ではありません。Jのオーバーシュートも見落とさないようにしてください。だまかに書いて、デバイダで太さ、位置を確認してください。

※ 欧文のセット幅(set)

欧文文字の横幅のことです。和文文字では同じサイズの正方形を基準にしてその内側に設計しますが、欧文のプロポーショナルフォントは文字によって文字幅を変えて設計され、このセット幅は文字間の調整の役割をします。セット幅より字面がでる文字もあります。





1 字体の理解

次のA~Jの語句に誤字が一つずつあります。その番号を右の解答欄に記入してください。

- |   |   |
|---|---|
| A. <sup>1</sup> ト <sup>2</sup> ラ <sup>3</sup> ソ <sup>4</sup> プ <b>ン</b> | F. <sup>1</sup> 個 <sup>2</sup> 独 <sup>3</sup> な <sup>4</sup> 人 <b>孤</b> |
| B. <sup>1</sup> 命 <sup>2</sup> 令 <sup>3</sup> 口 <sup>4</sup> 調 <b>令</b> | G. <sup>1</sup> 目 <sup>2</sup> を <sup>3</sup> 疑 <sup>4</sup> う <b>疑</b> |
| C. <sup>1</sup> 内 <sup>2</sup> 容 <sup>3</sup> 分 <sup>4</sup> 析 <b>析</b> | H. <sup>1</sup> 友 <sup>2</sup> を <sup>3</sup> 招 <sup>4</sup> 介 <b>紹</b> |
| D. <sup>1</sup> 口 <sup>2</sup> を <sup>3</sup> 狭 <sup>4</sup> む <b>挟</b> | I. <sup>1</sup> 元 <sup>2</sup> 旦 <sup>3</sup> の <sup>4</sup> 光 <b>旦</b> |
| E. <sup>1</sup> 交 <sup>2</sup> 通 <sup>3</sup> 遅 <sup>4</sup> 延 <b>延</b> | J. <sup>1</sup> 緑 <sup>2</sup> 化 <sup>3</sup> 運 <sup>4</sup> 動 <b>緑</b> |

3 基礎知識および用具、用材、用法の理解

次の1~10の文章の□にあてはまる最も適切な語句を( )の中から選び、その記号を右の解答欄に記入してください。

- 和文書体をデザインするとき、基本となる正方形の枠のことを□とよぶ。(A)仮想ボディ (B)全角)
- 感動や興奮、強調などを示す、文の最後に置かれるマークを感嘆符といい、□ともよばれる。(A)雨だれ (B)はねあげ)
- 約物の一つである「( )」を□とよぶ。(A)ステンシル (B)パーレン)
- 「パンダ」という単語の中で、半濁音の字は□である。(A)パ (B)ダ)
- 欧文書体のラインシステムで、もっとも上部の基準となるのは□ラインである。(A)アセンダー (B)デセンダー)
- 色相・明度・彩度から成る三つの性質のことを□という。(A)色立体 (B)色の三属性)
- 赤やだいたい、黄などの色相には、□イメージを伝える心理的効果がある。(A)暖かい (B)涼しい)
- デザインや図版制作などに幅広く利用される、白くて滑らかな上質紙のことを□という。(A)板紙 (B)ケント紙)
- 鉛筆の芯についている「H」や「B」の記号は、濃さと□を表す。(A)太さ (B)硬さ)
- ロゴタイプの文字が等間隔に見えるように□を調整した。(A)スペーシング (B)カウンター)

2 書体の理解

次の1~10の各書体で、基本書体の明朝体とゴシック体(丸ゴシック体も含む)には○印を、その他の書体には×印を右の解答欄に記入してください。

- |                              |                            |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. 風立ちぬ <small>行書</small>    | 6. 忍びの国 <small>隷書</small>  |
| 2. 夜の公園 <small>丸ゴシック</small> | 7. 空中庭園 <small>太明朝</small> |
| 3. 恋の手紙 <small>細ゴシック</small> | 8. 十月の光 <small>勘亭流</small> |
| 4. 冬の花火 <small>宋朝</small>    | 9. 白鳥の湖 <small>細明朝</small> |
| 5. 東京物語 <small>太ゴシック</small> | 10. 夕映少女 <small>楷書</small> |

解答欄

1	A	3
	B	2
	C	4
	D	3
	E	4
	F	1
	G	3
	H	3
	I	2
	J	1

2	1	×
	2	○
	3	○
	4	×
	5	○
	6	×
	7	○
	8	×
	9	○
	10	×

3	1	A
	2	A
	3	B
	4	A
	5	A
	6	B
	7	A
	8	B
	9	B
	10	A



アドバイス

1. 字体の理解

この問題は文字を書く時に注意する漢字の骨格の間違いを探す問題です。見たところ似ていますが、よく見るとおかしな箇所があります。

日頃から本に親しみ、文字を正確に書くことが大切です。

2. 書体の理解

レタリング検定で基本書体と定めている明朝体とゴシック体(丸ゴシック体も含む)を探す問題です。ウエイト(太さ)のバリエーションが何種類もあります。

○印だけでなく×印を忘れずに記入しないと減点になります。

3. 基礎知識および用具、用材、用法の理解

文字デザインに関する一般常識からの出題です。書体サンプル集の用語集に必ず目を通しておきましょう。

4 フリーハンドによる字体視写

下に示した文字A、B、Cを、それぞれの枠(わく)の中に、フリーハンドで、元の文字と同じ骨格で、拡大視写してください。

- 仕上げは鉛筆以外の黒の筆記具を使用。
- フリーハンドが基本だが定規の使用も自由。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。

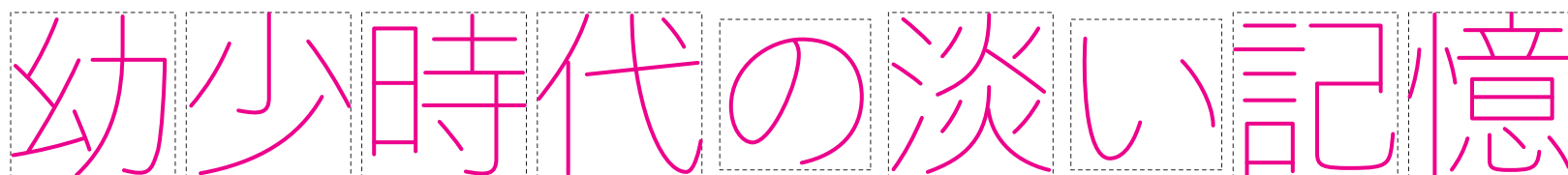
★点線は漢字、かなのそれぞれの字面基準枠です。

漢字はベタ組み、かなを少しツメたスペーシングです。

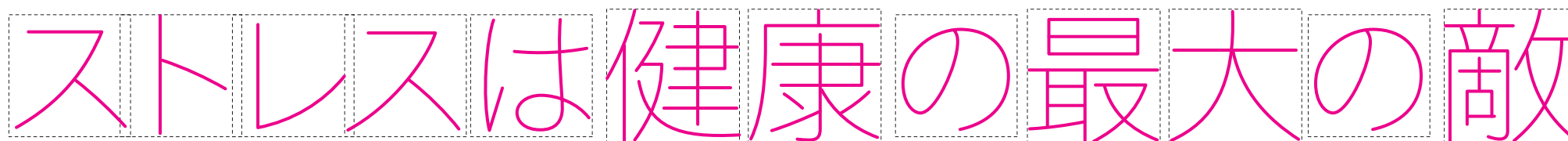
A 安全に運転



B 幼少時代の淡い記憶



C ストレスは健康の最大の敵

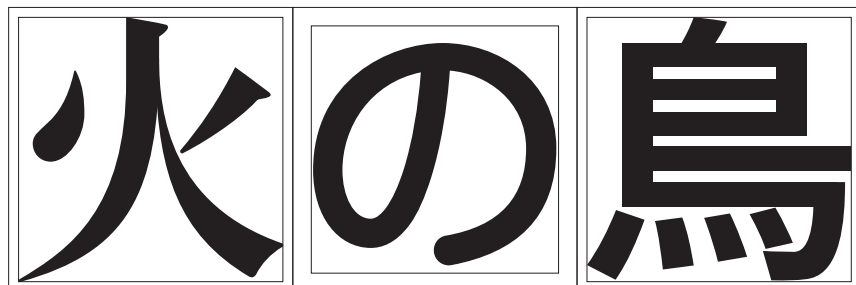


4.フリーハンドによる字体視写

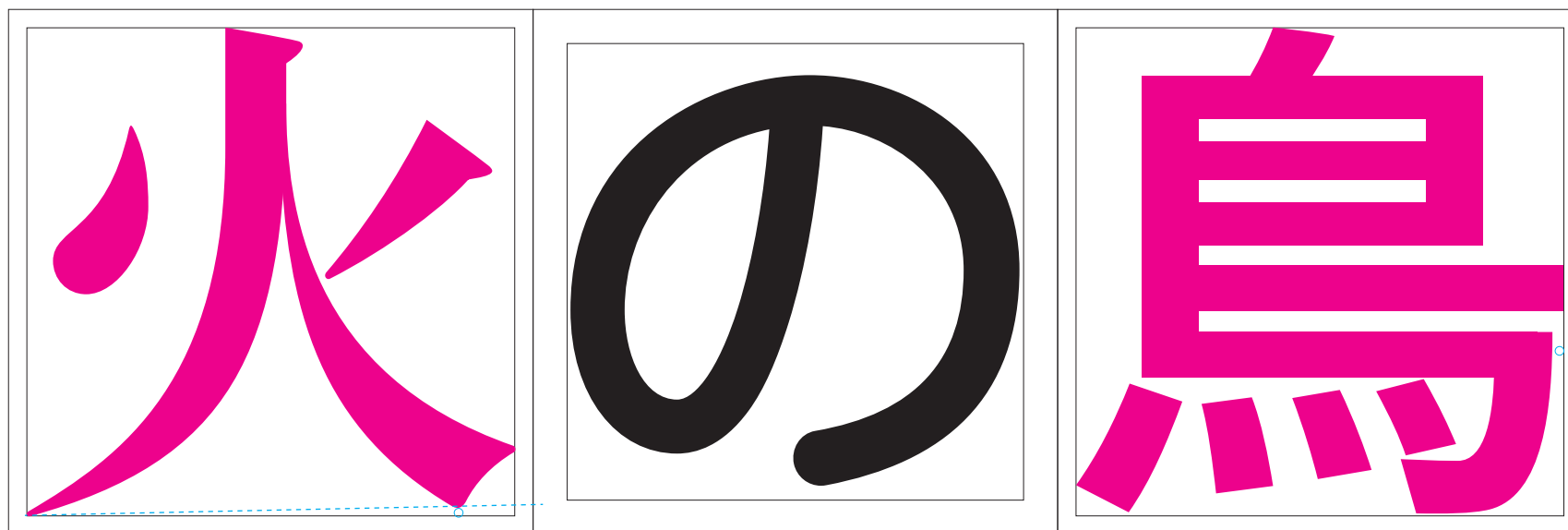
下書きは、紙を傷めないように、やわらかなB-2Bの鉛筆で、うすくていねいに書きましょう。消しゴムは墨書き部分が完全に乾いてから使わないと、汚れるおそれがあるので注意してください。枠(わく)に接している、離れているをよく観察してください。ここに書かれてる枠を字面(じづら)基準枠といいます。漢字とかなでは基準枠の大きさが違います。漢字は基本的にベタ組みで、かなは少しツメています。漢字とかなの字面枠の離れ方で文字のツメ方がわかるでしょうか？

5 和文基本書体の拡大視写

次の明朝体とゴシック体の漢字2文字「火、鳥」を下の枠(わく)の中に拡大視写してください。



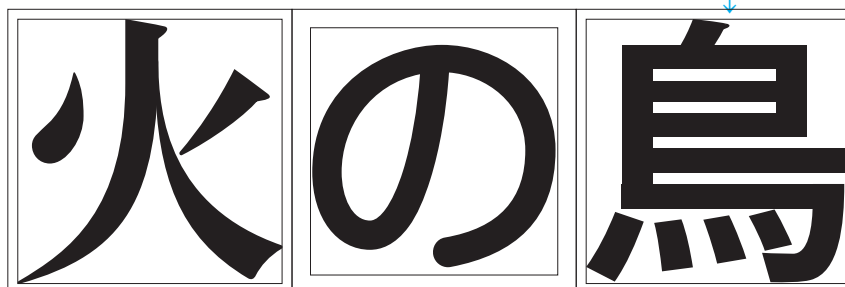
- 仕上げは鉛筆以外の用筆、用材で黒色とする。
- 塗り残しのないように、はっきりと仕上げること。
- 用具、用材の使用は自由。電卓の使用は禁止。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。



右上がり

アケル

つきだし有りでも OK



5.和文基本書体の拡大視写

明朝体とゴシック体はいつも目に見えている和文の基本書体です。この問題ではデッサン力とエレメントの仕上げ力が問われます。デッサンするとき設定されているわく(字面基準枠)に接しているか、どのくらい離れているかをよく観察してください。

明朝体はうろこや、点などのエレメントをしっかり描かないと、だらしのない文字になってしまいます。

ゴシック体は横線よりたて線を少し太くして錯視調整し、軽快にみせています。外側と内側の線の太さの差もよく観察して視写してください。

軽く枠の中を分割して描いても良いでしょう。でもあまり細かく分割するクセをつけるとデッサン力がつきません。

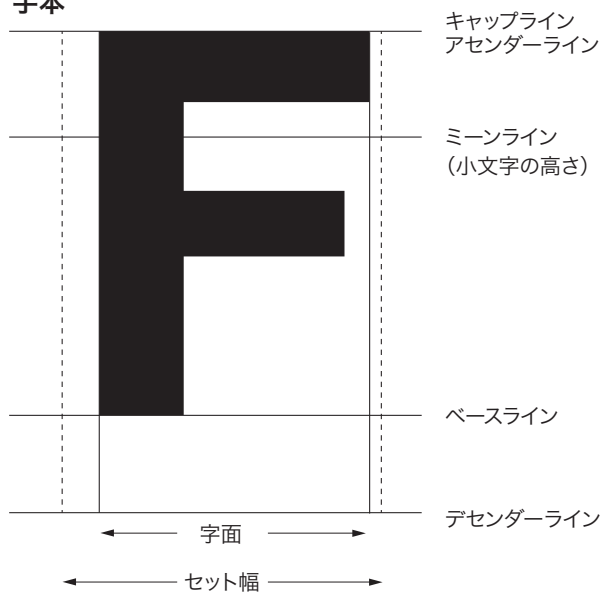
## 6 欧文基本書体の拡大視写

下の手本「F」を、右下のラインの中に拡大視写してください。

- 仕上げは鉛筆以外の用筆、用材で黒色とする。
- 塗り残しのないように、はっきりと仕上げること。
- 用具、用材の使用は自由。電卓の使用は禁止。
- 鉛筆の下書きは、必ず消しておくこと。
- 修整は自由。

書体名: Helvetica Neue Boldはキャップラインとアセンダーラインが共通です。

## 手本

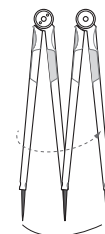


★ 出題方法が少し変更されたので、今回は次のヒントを参考にしてください。

- ① はじめは、ライン上におおまかに鉛筆デッサンしてみましょう。
- ② 手本の2倍の拡大視写なのでデバイダ(コンパスでも代用できます)で2倍寸にして、位置、大きさ、太さを確認すればマス目で分割は不要です。
- ③ 水平線、垂直線は必ず三角定規を使いましょう。

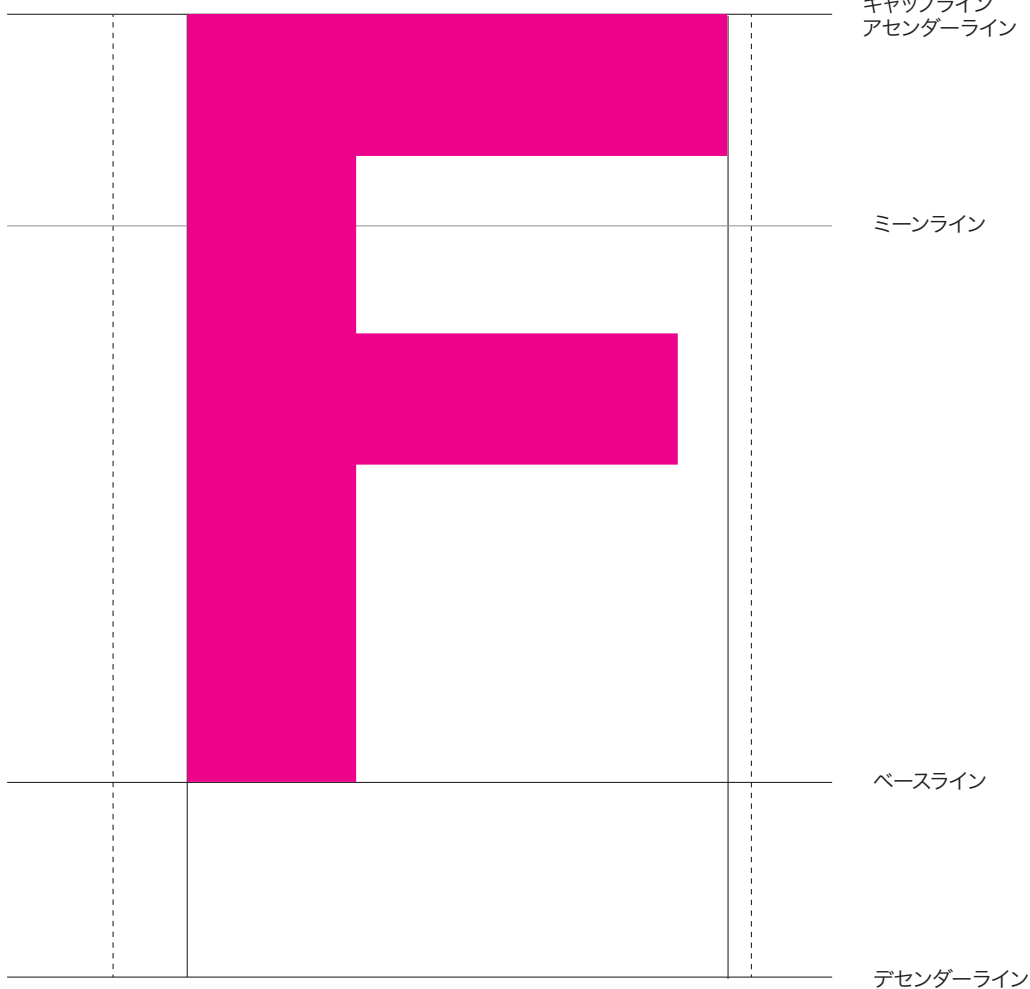


x1



x2

デバイダを180°回転させると寸法が2倍になります。



## アドバイス

## 6. 欧文基本書体の拡大視写

デバイダや三角定規の送りをうまく使いこなし、分割や線の延長がどこにいつているかを作図で割り出してみましょう。デバイダを使えば2倍寸して太さ、位置を確認できます。

マス目分割する割出線はおすすめしません。

## ※ 欧文のセット幅(set)

欧文文字の横幅のことです。和文文字では同じサイズの正方形を基準にしてその内側に設計しますが、欧文のプロポーショナルフォントは文字によって文字幅を変えて設計され、このセット幅は文字間の調整の役割をします。セット幅より字面がでる文字もあります。

